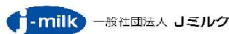


～海外の事例に学び今後の取り組みを探る～



報告②

IDF World Dairy Summit 2024 in Paris

酪農家円卓会議 (DFRT) / 酪農家討論

報告者:

半田 佑介

(有限会社 半田ファーム / 北海道・十勝)



2025. 2. 27.

IDF World Dairy Summit 2024 in Paris

酪農家円卓会議 (DFRT) / 酪農家討論



DAIRY PRODUCT
19 96
HANDA
FARM
HOKKAIDO, TAIKI



有限会社 半田ファーム
(北海道・十勝地区大樹町)
半田 佑介



有限会社半田ファームの紹介

- **所在地:** 北海道十勝地区大樹町
- **労働者:** 役員3名、従業員4名、パート5名
- **乳牛頭数:** 搾乳牛約100頭、育成牛約40頭
➔ 夏季放牧を実施
- **年間出荷乳量:** 年間乳量約850トン生産。
➔ フリーストールのヘリンボーンパーラー4頭ダブル
- **自給飼料生産:** 牧草用草地81ha
グラスサイレージ、乾草ロールを生産
- 1996年より両親が乳製品加工販売を始め、現在は弟がチーズ工房を担当。その他にも学生の実習や見学の受け入れの実施。



IDF酪農家円卓会議: 酪農家討論

テーマ:

- ① 労働力
- ② 気候変動/持続可能性
- ③ 新規就農者への機会と課題



テーマ①:労働力

外国人労働者

- 政府の方針が外国人労働者の流入に影響
- 言葉、文化の壁



規模拡大

- 搾乳ロボットよりもロータリーパーラーへの移行
- 家畜の管理から人の管理へ

機械導入・自動化

- 資金問題
- 農業に触れる機会の減少
- 人の雇用が減少
- 技術習得の必要性の低下

テーマ②:気候変動/持続可能性

環境規制・要望のプレッシャー

- 政策、規制など酪農家への要求が増加



国ごとに異なる気候変動の影響

- 気候変動を感じている国や地域は多い

GHG排出量算定ツール

- 各国で多くの異なる算定方式があるため、比較が困難
- EU諸国ではカーボンフットプリントを測定するツールがある

テーマ③:新規就農者への機会と課題

技術習得

- 新規就農のための資金面や技術・専門知識の習得の難しさ
- 世界的に農業分野の人口は2~3%程度



新規就農プログラム

- 国によって異なる取り組み
⇒英国ではNFUが学校にて食育活動や農業への参入を奨励

メンタルヘルス

- 酪農はストレスが多く孤独を感じやすい職業であると世界中で認識
- 農家にかかっている圧力が一般人に認識されていない
- オーストラリア、英国ではメンタルヘルスへの問題意識が高い
- 休暇が一つの解決策
⇒ヘルパー制度を配置する必要

その他:新規就農者の事例紹介 NZのシェアミルクング制度

シェアミルクング制度とは?

- 経営者の下、**雇用労働者という段階**から始まり、**段階的に収入、費用および労働を分配(シェア)して行う共同経営システム**
- 経営者を目指す新規就農希望者が、**知識と経験、そして資金を蓄積するための重要なキャリアステップとして機能**

利点

- **実務経験に乏しく、十分な資金のない新規就農希望者に対し、経営者になるために必要な技術、知識および資金を蓄積する重要な機会を提供**
- 経営者や雇用労働者との良好な人間関係の構築や、**酪農場の責任者としての自覚**を促す

現在の問題点

- 近年の農場価格の高騰や生産者支払乳価の変動などにより、**経営者になるにはより多くの牛を所有しなければならない⇒経営者になるための期間が長期化**

IDF酪農家円卓会議：酪農家討論 まとめ

テーマ①：労働力

- 海外からの労働者に頼っている農家は多い
- 機械化や自動化は労働力削減になるが、技術力や人の雇用の減少が懸念
- 農家が人を雇用することの難しさ

テーマ②：気候変動/持続可能性

- GHG排出量算定ツールは、多くの算定方式があるので比較が困難
- 気候変動は国によって影響が異なる
- 環境規制や政策などの要望の圧力を感じている農家は多い

テーマ③：新規就農者への機会と課題

- 農業に触れる機会が減っているため、食育活動が重要
- 各国で異なる新規就農への支援やアプローチ
- メンタルヘルスの重要性

日本との比較・所感

1. 日本での酪農の現状との比較

①日本との共通点

- 外国人労働者の雇用
- 農業に興味を持ってもらうための食育活動
⇒食育活動は重要であることを再認識
- 離農が増えており、新規就農者への支援の必要性

②海外から学ぶべきもの

- 農家に対する環境対策や政策
- GHG測定ツールの利用
⇒自農場による環境・社会への影響の「見える化」は、生産者のモチベーションにもなる
- 酪農家のメンタルヘルスの配慮や対策
- 国によって異なる、新規就農に対する様々な取組み

2. その他所感

- 世界的にも、生産コストの上昇など酪農業の経済は良くない印象
- 海外労働により学んだ技術の自国への貢献度合い